

もっと知りたい！ 人工関節

専門医に聞いてみました！



医療法人伯鳳会
はくほう会加古川病院

三谷 和慶 先生

【病院HP】
<https://www.kakogawa.hyogo.med.or.jp/medical/ik0116>

一人ひとりに合わせた、 信頼される治療を



ドクタープロフィール

三谷 和慶 先生

【趣味】

子供たちと遊んでいます！
娘2人と公園に一緒に行くなど、休日は家族と過ごしています。

【最近のトピックス】

再生医療
再生医療の進歩は著しく、患者さんからも診察の際にご質問頂くこともあります。
患者さんと日々接している中で、ニーズとしてこれからより注目される分野だと感じています。

三谷先生が日頃診療を行われているなかで、心がけていらっしゃることはありますか。

お一人おひとりに合わせて分かりやすい説明を行うことで、自分自身の治療を理解していただき、信頼いただけるよう心がけています。治療方法や症状を理解しないままにお薬だけもらって何とかしようとしている患者さんの中には見受けられます。当たり前のことかもしれませんが、自分は今どのような症状があって、症状に対してどのような治療を受けているのかをしっかりとご理解いただくことが大切だと思っています。

ご家族と一緒に来られた際には、ご希望があればご家族にも外来に一緒に入っていただき同じ説明を聞いていただいています。ご本人が気づいていない点をご家族の方がお話しくださったり、またその逆でご家族が気づいていなかったご本人の困りごとが分かったりなど、外来に一緒に来ていただくことで双方が理解できることもあります。

関節の痛みはどのようにして起こるのでしょうか。

軟骨のすり減りや靭帯・半月板の損傷、その他にも腰痛からひざの痛みにつながるケースなど原因は様々です。一概に、痛みのある個所だけに問題があるとは限りません。

痛みを抱えて来院した患者さんの中には、我慢し続け、民間治療で何とかしのいできたような患者さんもいました。

しかし痛みを我慢してもいい事はなく、症状が悪化すればするほどできる治療の範囲は狭くなってきてしまいます。一度すり減ってしまった軟骨は元に戻すことができません。だからこそ、痛みに対して早く気づき、早く治療を始めることが大切になってきます。

平均寿命も80歳を超えてきておりますので、身体も心も元気に過ごすためにも「人工関節置換術」という選択肢があることはよいことだと思います。



◀三谷 和慶先生からのメッセージ動画





手術が必要となるのは、どのような状態でしょうか。

痛みのレベルやご自身がどこまで日常に困りごとがあるかによります。X線画像上は変形が強い場合でも、痛みがそれほどない方も中にはいます。痛みがそれほどなく、活動量も多くない方には保存療法で様子見することもあります。

また、中には長年痛みを我慢した患者さんの場合、関節が固くなることでひざが伸びなくなってしまう、生活に支障が出る方もいます。変形が強くと出ると、痛みが出る場所をかばうために腰や脚にも影響がでます。治療方法やリハビリも難しくなる場合があるため、まずはご自身の状態を知るためにも早めの受診をおすすめします。手術を行うかどうかの最後の判断は患者さんご自身ですので、患者さんご本人がよい治療法を選択できるようサポートします。

人工関節置換術には、どのようなリスクがありますか。

基本的にはありませんが、診療時にご説明させていただいているのは、術後の合併症リスクです。合併症として主に挙げられるのは「感染症」と「麻痺」です。

しかし、現在「感染症」と「麻痺」はほとんどありません。どんな手術にもリスクはつきものですが、人工関節置換術は以前に比べて大きく進歩しており、身体への負担も少なくなってきました。現代の人工関節は30年以上の耐久性を持つようになったと言われており、人工関節インプラント自体も手術方法も格段に良くなっています。ご不安な点、心配なことはあって当然です。少しでも気になることがあればご質問ください。

人工関節置換術においてどのくらいの入院期間が必要か教えてください。

当院では、抜糸までは入院していただきます。人工関節置換術の場合は約2週間～3週間の入院スケジュールです。

術後のリハビリに関しても、疼痛コントロールをしながら患者さんのペースに合わせて進めていきますので、術後の痛みに関しても安心していただければと思います。リハビリは入院中にある程度不安がないところまで完遂するようにしています。人工股関節置換術の場合、ほとんどの方が術後約1週間で歩くことができるようになります。そのため退院後もリハビリの継続が必要なケースはほとんどありませんので、しっかりと歩けるようになってから退院できるようリハビリの面でもサポートしていきます。

印象に残っている患者さんについて教えてください。

人工ひざ関節手術を両ひざ受けられた患者さんです。最初に片方の人工ひざ関節置換術を受けられましたが、痛みが取れたことなどに非常に満足され、もう片方も治したいと両ひざとも人工ひざ関節置換術を受けることを決意されました。

この方は我慢を重ねてきた分、初期の痛みがありなかなか最初は思うようにリハビリが進みませんでした。しかし、ご本人が非常に努力家で、リハビリを続けていく中で痛みも取れ、しだいに歩けるようになりました。このように、人工関節置換術は患者さんの満足度が高い治療法であり、治療の最後の砦であると考えています。



もっと知りたい!
人工関節

<https://motto-kansetsu.com>

ひざ関節・股関節などの痛み、人工関節についての情報を発信するサイト「もっと知りたい人工関節」はナカシマヘルスフォースが運営しています。